

すわみつえ通信

No.118 2020年4月6日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

新型コロナ対策情報

小中学校一律休校措置から1か月が経過し、新年度が始まりました。スーツ姿のフレッシュマンで賑わう駅も閑散としています。通信をお読みいただいている皆さんはいかがお過ごしでしょうか。鴻巣市では感染者が3名となりました。今後も感染が広がらないよう努めていきたいと思えます。「アベノマスク」ではない有効な手立てが求められています。鴻巣市の対策及び埼玉県への対策をお伝えし、お困りのことやご意見を寄せていただくようお願い致します。

鴻巣市では

■市が備蓄しているマスク22,650枚を各施設に配布(3月中旬)

☆鴻巣市医師会・北足立歯科医師会鴻巣支部 鴻巣薬剤師会各3,000枚
☆保育施設(31)・放課後児童クラブ(13)・幼稚園(5)各100枚

☆高齢者福祉施設・介護施設・障がい者施設・公民館・体育施設等(235)各50枚

■新たにマスク15万枚調達、保育園配布に体温計・消毒液・空気清浄機購入を3月議会補正予算で決定。

●小・中学校の今後の対応について

- ①入学式・始業式は予定どおり4月8日(水)に実施↓出席者は新入生、保護者(各家庭2名以内)、教職員のみ。
- ②全学年の未指導分を補充するための授業を年度当初に実施。
- ③令和2年度の夏季休業期間を7月21日から8月23日までとする。↓第2学期の始業は8月24日
- ④中学校の部活動は、3月27日から、1日当たり2時間以内に限り各校長の判断で実施。

◆公共施設等の利用について

公民館・コミュニティセンター・体育施設等は、4月30日(木)まで貸館業務の休止。

図書館は、4月4日(土)から4月30日(木)まで業務の縮小。
※インターネット及び電話で予約を受けた資料の貸出・返却のみ可能。

埼玉県では

- ▼全国に先駆けて、PCR検査対応の方針を作成。
- ▼2019年度予算で簡易陰圧アンテナを5基配備。
- ▼感染者指定医療機関等への人工呼吸器などの整備、介護施設等も含めたマスクや消毒液の確保・配布。

▼「新型」コロナウイルス感染症県調整本部」設置。本部長に呼吸器が専門である循環器・呼吸器病センター病院長の星永進氏を4月1日から配置。

中小企業対策で融資の対象者要件を緩和した「経営あんしん資金」を、新型コロナウイルス特例として設け、2月19日より運用開始。

入院病床75床に一般病床150床を追加確保。



PCR検査機器



簡易陰圧テントの一例

通信No.117の「空からの贈り物」の一文に俳句が届きました

「頼づえをついて眺める春の雪」

風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている、強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)があるときは左記に相談してください。

埼玉県鴻巣保健所

《帰国者・接触者相談センター》

電話番号: 048-541-0249

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

アベノマスク 国民反発

布製のマスクを1世帯に2枚配るという安倍晋三首相が専門家会議にも諮らずに決めた新型コロナウイルス感染症対策が、2日夜放送のBS-TBS番組「報道1930」で話題になり、日本共産党の小池晃書記局長は、網目の粗い布製マスクは予防の意味はほとんどなく、「税金の使い方が違う」と厳しく批判しました。

小池氏は、外出や営業の自粛にともなって、「イギリスでは賃金の8割、フランスでは100%、ドイツでも100万の無駄遣いぶりを明らかにした。」

「多くの人はこの措置がばつとせず、ウイルスの感染拡大を抑える効果を上げるには時間がかりすぎる」と感じている」と指摘し、「アベノマスク政策」と揶揄（やゆ）されていると報じました。

ロイター通信は2日、安倍氏の発表が「ソーシヤルメディアで嘲笑（あざわら）され、同氏の危機対応に不満が高まっていることを示した」と報じました。

新型コロナウイルス感染症の治療薬として期待される抗インフルエンザ薬「アビガン」（一般名ファビピラビル）の増産に向け、中堅化学メーカーのデンカ（東証1部上場）が5月からアビガンの原料となる「マロン酸ジエチル」の生産を新潟県糸魚川市の工場ではじめると発表した。

マロン酸ジエチルは合成香料・農薬・医薬品などの原料に使われる有機化合物で、デンカは



布マスク配布 究極の場当たり策

朝日新聞 4月4日付
治療薬期待「アビガン」
原料の国内生産再開へ

国内唯一のメーカー。マロン酸ジエチルの原料となるモノクロル酢酸も、デンカの関連会社が国内で唯一生産している。

デンカは2017年4月までマロン酸ジエチルを生産していた。海外勢との競争激化で撤退したが、生産設備は残っていた。国産原料を使ったアビガンの供給体制を国内で築きたいと政府から要請を受け、生産再開を決めた。

（木村裕明）

小池氏批判 布マスク2枚より 抗体検査キット

しんぶん赤旗 4月4日付

アベノマスク

にしました。

専門家からも、「布製マスクはすぐ息が吸いやすい。つまり、ザル金をつかったほうがよっだ」ということだ。感染予防効果はないと考えられている。予防効果はないと考える「あまりにタイミング的」（久住英二・ナビタスクリニック理事長）などの指摘が相次ぎました。

抗体検査キットの有用性も、小池氏は「マスクを2枚ずつ配るより、こういうものにお金をつかったほうがよっだ」と主張。コメをやる人が首相の周りにはいないのか」とたたきつけた。議員は、「私がいけば、院議員は、私がいれば、こういうことはしませんでした、はい」と吐き捨てたように言う始末でした。

性を強調した小池氏は、「マスクを2枚ずつ配るより、こういうものにお金をつかったほうがよっだ」と主張。コメをやる人が首相の周りにはいないのか」とたたきつけた。議員は、「私がいけば、院議員は、私がいれば、こういうことはしませんでした、はい」と吐き捨てたように言う始末でした。

コロナは心まで「感染」

日赤 不安・差別まん延防止訴え

「負のスパイラルを断ち切ろう」。新型コロナウイルスの拡大で、過剰な不安や感染者らへの偏見、差別が広がっています。日本赤十字社（東京）はそれらも一種の感染症と位置付け、まん延を防ごうとリーフレットを作成してホームページで公表しています。

作成に関わった日赤災害医療統括監の丸山嘉一医師は「ウイルスは心の中にも感染する。特效薬やワクチンはないので自分で連鎖を断ち切るしかない。立ち止まって考えるため、読んでもらえれば」と呼び掛けました。

